

美術館ニューズ

群馬の森

no. 201
2025 7/1

THE 16TH GUNMA BIENNALE FOR YOUNG ARTISTS

群馬青年ビエンナーレ 2025



群馬青年ビエンナーレ 2021 展示風景

2025年7月19日[土] - 8月24日[日]

会場：展示室 1

休館日：毎週月曜日（ただし7月21日、8月11日は開館）、7月22日（火）

開館時間：午前9時30分 - 午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般 500 (400)円、大高生 250 (200)円

* () 内は 20 名以上の団体割引料金

* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者 1 名は無料

主催：群馬県立近代美術館、上毛新聞社

協賛：株式会社原田・ガトーフェスタハラダ

審査員：鬼頭健吾（現代美術作家）、沢山 遼（美術批評家／武蔵野美術大学准教授）、豊嶋康子（美術家）、牧口千夏（京都国立近代美術館主任研究員）、森 啓輔（千葉市美術館学芸員）／敬称略・50音順

「群馬青年ビエンナーレ」は、新進アーティストを対象とした全国公募の展覧会です。16回目の開催となる今回は 244 組から 342 点の応募をいただきました。書類選考により 44 組 44 点が入選となり、6月に行われる入賞審査で、大賞、ガトーフェスタハラダ賞、優秀賞、奨励賞が決定します。

入賞作品を含む全入選作品を展示する本展では、絵画、彫刻、写真、映像、インスタレーションなどさまざまなジャンルの作品が一堂に会します。世界へと羽ばたいていく可能性を秘めたアーティストたちの多彩な表現からは、清新なまなざしや情熱が感じられることでしょう。これからのアートシーンを担う彼らによる、時代の感覚をとらえた作品を通して、美術の「いま」をご体感ください。

なお、展覧会初日の7月19日（土）には、表彰式を行います。本展の審査員や作家たちと交流できる貴重な機会ですのでぜひご参加ください。

【関連事業】 2025年7月19日（土） 表彰式◆午後2時～；当館2階講堂

就任にあたって

特別館長 村上博哉

このたび、50年の歴史を持つ群馬県立近代美術館の特別館長に任命されたことは光栄の至りです。私は名古屋の愛知県美術館と東京の国立西洋美術館で、30年あまり学芸員を務めてまいりました。微力ながら、館の活動の充実に多少とも貢献できればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

群馬県立近代美術館は2千点以上の多岐にわたる美術作品を所蔵しており、故・磯崎新氏の設計による建築も当館の誇るべき財産に数えられます。しかし、当館のコレクションが多くの方々からの寄贈・寄託によって拡充してきたことを忘れてはならないでしょう。また、友の会やボランティアの方々からも、館の諸事業に継続的な支援をいただいています。このように私たちの活動を支えてくださる方々の存在や、折に触れて来館される皆様とのつながりこそ、当館の最も貴重な財産であると思います。美術作品との出会いの場、そして世代を超えた人々の交流の場として、私たちは県民の皆様のご信頼と期待に応えるべく活動を続けてまいります。これからも皆様のご支援をお願い申し上げます。



こども+おとな+夏の美術館

2025年7月19日(土)～8月31日(日)

夏休み期間中、募集制のワークショップやどなたでも自由に参加できる創作体験など、多彩なイベントを開催いたします。申し込みが必要なプログラムもありますので、詳しくはちらし、ホームページをご確認の上、ぜひご参加ください。

□ワークショップ「マネックスターをつくろう」【要申込/要参加費】

講師：浅野暢晴(彫刻家)
日 時：8月11日(月・祝) 10:30～12:30、14:00～16:00
参加費：550円
会場：2階アトリエ
対象：幼児～一般(小学3年生以下は保護者同伴)

□ワークショップ「キュビズムで描こう!ピカソの世界」【要申込/無料】

講師：温井大介(アーティスト)
日 時：①こども向け 7月26日(土) 10:30～12:30
②じっくり描きたい人向け 8月16日(土) 10:30～15:30
会場：2階アトリエ
対象：①幼児～小学生(小学3年生以下は保護者同伴)
②小学4年生～一般(午前・午後と参加できる方)

□ミニワークショップ【申込不要/無料】

「ポップアップカードをつくろう！」

期 日：7月20日、27日、8月3日、10日、17日、24日、31日 *毎週日曜日
時 間：各日 10:00～16:00
会 場：1階ホール

「チラシでつくるアートな風鈴」

期 日：7月23日、30日、8月6日、13日、20日、27日 *毎週水曜日
時 間：各日 10:00～16:00
会 場：2階アトリエ

□ファミリータイムプラス「えのぐあそび」【申込不要/無料】

期 日：7月24日、8月14日、28日(毎月第2・4木曜日午前中)
時 間：9:30～12:00
会 場：2階アトリエ

□鑑賞プログラム【申込不要/要観覧料】

「おはなししよう! -午前《ゲルニカ(タピスリ)》/午後『群馬青年ビエンナーレ』」

日 程：7月31日、8月21日(木曜日)
時 間：10:30～11:30 / 14:00～15:00(所要時間20分程度)
会 場：午前⇒2階展示室2 / 午後⇒1階展示室1

□いつでも参加できるワークシート【申込不要/要観覧料】

「ミュージアム・パスポート」

会 場：2階展示室

□夏休み宿題スペース【申込不要/無料】

会 場：1階インフォメーションカウンターと絵本の森の間

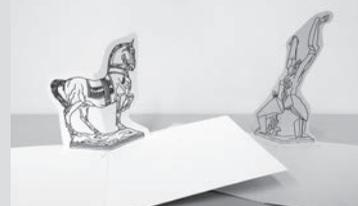
E v e n t



マネックスターをつくろう



キュビズムで描こう!ピカソの世界



ポップアップカードをつくろう!



チラシでつくるアートな風鈴

コレクション展示

[展示室 2・6]

■日本と西洋の近代美術Ⅱ 7/19～8/31

当館の収蔵品より、モネやルノワールなどの西洋近代絵画ならびに彫刻、明治から昭和にかけての日本近代洋画を紹介します。また、ピカソの原画による《ゲルニカ(タピスリ)》を展示します。



パブロ・ピカソ(原画)/ジャクリーヌ・ド・ラ・ボーム=デュルバック(織り)
《ゲルニカ(タピスリ)》1983年(原画:1937年)

[展示室 3]

■新収蔵作品紹介① 鶴岡政男 7/19～8/31

1960年代にパトロンとして鶴岡政男を支えた故飯田勲氏旧蔵のコレクションが、昨年度当館に寄贈されました。60年代の大作を中心に、第二次世界大戦前後の貴重な作品を含む油彩画 21点、パステル画 5点により、ユーモラスでありながら時代への鋭い風刺が込められた鶴岡の表現をお楽しみください。



鶴岡政男《アクロバット》1949年

[展示室 4]

■戦争と美術 アンソロジー 7/19～8/31

戦後80年の節目にあたり、戦争を主題にした作品を展示します。17世紀フランスで戦場の様子を描写した版画家カロの作品、19世紀の画家ドーミエがクリミア戦争をとりあげた風刺版画、第二次世界大戦中にヘンリー・ムーアがロンドンの防空壕の情景を基に描いた素描作品など、展示の機会が少ない作品をご紹介します。



オノレ・ドーミエ「できごと」No.104《なぜゆえに人は、大きなベッドの上に横たわっていても、窮屈に感じてしまうのだろうか》1854年

[展示室 5]

■新収蔵品紹介② 石内都 7/19～8/31

新収蔵作品より、本県出身の写真家石内都が母の遺品をテーマに制作したシリーズ「mother's」の作品28点を展示します。



石内都《mother's #57》2004年

[展示室 7 山種記念館]

■井上有一 東京大空襲 7/19～8/31

凄惨な体験から生まれた《東京大空襲》。井上有一の没後40年、かつ終戦から80年となる今年、書を美術の視点から読み解き歴史に迫ります。(なお、《噫横川国民学校》は貸出のため当館では展示いたしません。)



井上有一《東京大空襲》1978年(30点組より)(令和2年度展示風景)

M u s e u m | N e w s

友の会だより

Museum :: Shop

◆ミュージアムショップより

*新商品のご案内

このたびミュージアムショップでは、当館所蔵のオディロン・ルドン《ペガサスにのるミューズ》をモチーフにしたオリジナルトートバッグの販売を開始いたしました。こちらの商品はトートバッグ専門ブランド ROOTOTE(ルートート) とのコラボレーションとなっております。美術館ご観覧の思い出に、ぜひお買い求めください。



オディロン・ルドン《ペガサスにのるミューズ》オリジナルトートバッグ
¥3,380(税込)



バッグサイズ40×39cm / 持ち手長さ57cm(背面と内側にポケット付き)

お問い合わせ：群馬県立近代美術館 友の会 TEL 027-346-5560(館代表) / FAX 027-346-4064

響きあう絵画

宮城県美術館コレクション

カンディンスキー、高橋由一から具体まで

2025年9月13日[土] - 11月9日[日]

会場：展示室1

休館日：毎週月曜日（ただし9月15日、10月13日、11月3日は開館）、
9月16日、10月14日、11月4日（火）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般900(720)円、大高生450(360)円

*（ ）内は20名以上の団体割引料金

* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、

群馬県民の日(10/28)に観覧される方は無料

主催：群馬県立近代美術館、宮城県美術館、朝日新聞社

協力：カトーレック株式会社



猪熊弦一郎《葉を持つ女》1939年
宮城県美術館蔵
©公益財団法人ミモカ美術振興財団

19 81年、仙台市に開館した宮城県美術館は、明治から昭和に至る充実した絵画作品を収蔵しています。本展では、同館のコレクションの原点である高橋由一をはじめ、萬鉄五郎や松本竣介など近代美術史の指標ともなる作家の明治から戦前期までの作品を展示するほか、戦後の絵画では、一大潮流となった抽象画や、関西の前衛グループ「具体」の作家の作品などにより、熱気に満ちた激動の時代を浮かび上がらせていきます。一方、海外作家では、カンディンスキー、クレーらドイツ表現主義の画家たちの優品が、美術館の収集活動、展示活動を豊かに形成しています。さらに、エッセイ「きまぐれ美術館」で知られる、画廊主で作家の洲之内徹が残した「洲之内コレクション」は、美術館のコレクションを多彩で変化に富んだものにしていきます。大規模改修工事のために休館中の宮城県美術館のコレクションは全国各地を巡回し、この秋、当館の展示室に勢ぞろいします。

水野 暁 視覚の層 | 絵画の層

2025年9月13日[土] - 12月16日[火]

会場：展示室4、5

休館日：毎週月曜日（休日の場合はその翌日、ただし11/25、12/8、
12/15は開館）、11/10～20、12/1～5、12/11

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般300(240)円、大高生150(120)円

*（ ）内は20名以上の団体割引料金

* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、

群馬県民の日(10/28)に観覧される方は無料

水野 暁(1974-)は群馬県東吾妻町に生まれ、現在も同地を拠点に活動を続ける画家です。当館では2014年、開館40周年を記念するグループ展「1974年に生まれて」においてそれまでの代表作を展示し、大きな反響を呼びました。今回の個展では、それ以降の10年間に制作された大作を中心に、近年の水野の展開をお見せします。

水野は3年から4年をかけて対象と向き合い、季節の移り変わりや年月の経過を一枚の画面に凝縮させます。この2年間は、榛名湖アーティストレジデンスにおいて榛名湖の水面をモチーフとした150号の絵画を描き続けており、本展ではその未完の作品を初公開する予定です。

焦点や解像度を変えて対象を見つめ続ける水野の視覚が絵具の層となって画面に積み重なり、写実を超えたりアルな存在として私たちの前に現れます。



《日本の樹・二本の杉(白山神社/東吾妻町・伊勢の森/中之条町)》2018-2022年 個人蔵

